

根室の“夏”幕開け

— 第54回ねむる港まつり7/14・15 —

根室の夏を告げる港まつりが、2日間わたって盛大に開かれました。

根室港を中心にさまざまなイベントが行われる中、恒例の「千人踊り」では、残念ながら千人の参加とはなりませんでしたが、色とりどりの華やかな浴衣を身にまとった九百人余りの参加者が、鳴海公園から緑町中心街までを約1時間に渡ってパレードを行いました。ビザなし交流で来根していたロシア人の団体も踊りに参加しパレードに華をそえ、例年参加している市内の各団体も雨に降られず無事に終えることができたことを喜び、パレード終了後には、浴衣姿のまま三々五々に夜のまちへと繰り出していきました。2日目の目玉となる「舟こ



港まつり名物「千人踊り」



園児たちのかわいらしい太鼓演奏



雨の中熱いレースを繰り広げた舟こぎレース

ぎレース」では、参加した25チームによる白熱した戦いが繰り広げられました。途中から降り出した雨により予選レースのみでの表彰となり、一般の部は「マイル、マイル」、女性の部は「釧路町Q SしゃもじーS」が優勝となりました。

祭りの最後を締めくくる花火大会では、根室港に大輪の花々が咲き誇り、根室の漁業の繁栄を祝いました。

さらなる交流発展に期待

— ベトナム技能習生園内講義開講6/23 —

ベトナムとの人的交流等を目的に、ベトナム人技能実習が実施され、実習生として16人のベトナム人女性が来根し、開講式が根室商工会館で行われました。

開講式では、長谷川市長から「根室で身につけた技術をベトナムで役立ててほしい。」と歓迎のあいさつを受けた後、実習生を代表してイエンスンから「日本をもっと勉強し、コミュニケーションを図ってきたい。」と、日本語での決意表明が行われました。

実習生はマナー研修を受けた後、市内の水産加工会社2社に派遣され、水産物の加工技術の習得など、最大3年間の実習を行っていきます。



海の安全を見守り続けて

— 納沙布岬灯台一般公開7/16 —

本土最東端の納沙布岬灯台で例年、「海の日」に実施されている一般公開が行われ、多くの市民や観光客が訪れました。

今年も納沙布岬灯台が、点灯開始してから140年という節目の年にあたり、これを記念して10月までの4カ月にかけて、月1回の一般公開が予定されています。灯台内では、市民公募により集まった灯台の写真やこれまでの歴史を記録した写真、資料などが展示され、訪れた市民は、海上保安部職員からの説明に真剣に耳を傾けたり、展望デッキに上がり北方領土の位置を確認するなど、普段見ることのできない灯台からの眺めを楽しんでいました。

キャンドルの灯にゆれながら

— ガイアナイト2012 7/11 —

根室市と根室振興局の共催で、地球温暖化対策への意識の向上を目的に、3年前から実施している「ねむるガイアナイト」が、カトリック幼稚園を会場に開かれました。

キャンドルのひかりで彩られた会場では、おだやかな雰囲気にも包まれる中、弦楽コンサートやフラダンスが次々と披露されました。また、屋外ではキャンドルアートの展示も行われ、20個のろうそくで作り上げられた作品は、初夏の夜空を一層と輝かせていました。

会場では、節電などの温暖化対策への呼びかけも行われ、コンサートなどを楽しんだ市民は、改めて地球資源の大切さを感じていました。

